

(令和5年(2023年)秋掲載) 令和4年(2022年度)の学校経営計画及び学校評価 (高校部)

1. 目指す学校像

建学の精神である校訓三綱領の

- 『一、履正不畏(りせいふい)：自ら正しいと信ずることを、何ものにも畏れず勇気と責任を持って実践する。
二、勤労愛好(きんろうあいこう)：勉学に全力をつくし、人類の文化を継承発展させ、国家社会に貢献する。
三、報本反始(ほうほんはんし)：初心にかえり、自分の今日あるのは縁ある人々(ご両親や恩師)のお陰であり、常に感謝と報恩の念を持ち、行動の指針とする。』の訓えをもとに、知性と豊かな人間性を有し、次世代を担える生徒の育成。

2. 中期的(令和5年(2023年度)教育指導 重点目標

(1) 知育尊重と人間教育

1. 「学びを楽しむ」生徒の育成
2. ICTを用いて、生徒を魅了する教科指導
3. 進学指導の充実と進学実績の向上
4. 文武両道の推進・強化クラブの戦績向上

(2) 創立100周年を迎え、優れた進学校私学履正社として更なる飛躍を目指すため、ニーズに応える信頼づくり

1. 生徒・保護者・中学校からの信頼づくり
2. 地域に信頼される学校づくり

(3) 環境・システムの醸成

1. 心豊かで潤いのある学校生活
2. 生徒主体の学校行事に一新

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和3年(2021年)度末実施]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活は楽しい。 (R.4年(2022年)度:83.7% R.3年(2021年)度:80.6%) ・授業や課外活動を通して、思考力・判断力・表現力等が向上していると感じる。 (R.4年(2022年)度:80.4% R.3年(2021年)度:74.9%) ・行事は、生徒が楽しく参加できるように企画されている。 (R.4年(2022年)度:85.0% R.3年(2021年)度:76.6%) <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者としてこの学校に子供を通わせて満足している。 (R.4年(2022年)度:87.5% R.3年(2021年)度:80.0%) ・生徒の悩みや相談を聞いて、速やかに対応してくれる。 (R.4年(2022年)度:77.6% R.3年(2021年)度:70.0%) <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員間の信頼関係のもと、生徒の学校生活向上のため様々な教育的情報交換を積極的に行い、教育活動に活かしている。 (R.4年(2022年)度:72.9% R.3年(2021年)度:58.6%) ・学内外を問わず、他者に迷惑をかけないという観点より、社会的モラルやルール、エチケットについて、平素より機会をとらえ適切な指導に努めている。 (R.4年(2022年)度:81.7% R.3年(2021年)度:77.6%) <p>【学校運営全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒と保護者の全体質問(生徒:40問、保護者:38問)に対する肯定的回答比率(四捨五入で7割を肯定目途とする)は、生徒が82.5%、保護者が94.7%と高水準であった。 ・教員による自己評価では、全体質問で44問に対する肯定的回答比率(上記の生徒と保護者の尺度同様7割を肯定の目途とする)は、68.1%であった。 	<p>*令和4年(2022年)度教職員による自己評価、及び生徒・保護者による関係者評価に基づき、昨年度と対比しながら総括する。</p> <p>【学校の満足度について】 生徒では「授業や課外活動を通して、思考力・判断力・表現力等が向上していると感じる」において前年度74.9%から令和4年度は80.4%と+5.5%であり、生徒総数が増加していることにも鑑みると、大幅に上昇している。 上記の内容は、新学習指導要領において最も必要な3要素となっているので、この値が上昇したことは非常に喜ばしい。 上昇の理由として考えられるのは、ICTの環境完備や、探究学習の本格的導入、学校行事の活性化などが考えられる。 ICT環境整備に関しては、2021年の9月から全教室に電子黒板機能付きのプロジェクターとスクリーンを設置と、一人1台のタブレットを導入した。これらの授業支援システムにより、視覚的な補助が大きく、各授業が理解しやすくなり、生徒たちの学習意欲は向上している。 校則の見直しについても、2021年の6月より緊急時に対応するためスマートフォンの所持解禁や、9月からは頭髪規定の緩和など、「顧客満足度」に直結すべき内容に着手している。 本年度からは教育システムを大きく変更し、「学びを楽しめる生徒づくり」を目指している。学藝コースの全クラス、放課後はクラブ活動やゼミ・帰宅研修などを自分で選択し、放課後の学習スタイルを自分で設計させる。</p> <p>【学校行事について】 学校行事が楽しく企画されているかについては、前年度76.6%で令和4年度は85.0%と+8.4%であり、大幅に上昇した。 上昇した理由としては、生徒会が主体となって、様々な意見を出し、学校行事を一新したことが大きな理由の一つと言える。 学校行事の活性化が、学校の満足度に大きく関与すると考えられるので、現在の行事を魅力的なものに改訂したり、新たな行事を多数創設していきたい。 何よりも大切なことは「生徒が主体の学校行事」を数多く実施していくことである。</p> <p>【生徒への個別対応について】 保護者の「生徒の悩みや相談に速やかに対応してくれるか」においては、前度70.0%から令和4年度は77.6%と+7.6%であり上昇傾向となっている。 現在は生徒・保護者との連絡ツールであるclassiを全校利用しており、また上記にもあるようにタブレット導入も行っているため、今までよりも悩みや相談を教員に対して伝えることへのハードルが下がっている状況にある。また、今年度より「ネット担任制」を導入し、本格的に生徒一人一人の個別最適化を実現していった。</p>

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指数	自己評価
(1) 知育尊重と人間教育	<p>1. 進学指導の充実と進学実績の向上</p> <p>あ) 2 い) 30 う) 38</p> <p>2. 生徒を集中させる熱意ある教科指導</p> <p>あ) 19 い) 21</p> <p>3. 社会性の育成</p> <p>あ) 22 い) 23</p>	<p>1.</p> <p>あ)昨今の学校教育内容そのものや、教育情勢・教育環境の変化に敏感に反応し、且つ進学校としてのニーズに応える年間教育計画に基づいた授業実施に各教科担当は努めている。</p> <p>い)生徒に将来の進路に関心を持たせる進路指導(キャリアガイダンス)や教育(学年毎の進路説明会)が適切に行われている。</p> <p>う)生徒の実態・実情に即し、授業内容や教材について適宜職員間で意見交換をし、授業や指導に役立てるよう努めている。</p> <p>2.</p> <p>あ)教員は授業に対する十分な教材研究・事前準備に努めている。</p> <p>い)学習内容はクラスのグレード編成に応じて効果的に展開されている。</p> <p>3.</p> <p>あ)人権教育の観点からも個人情報やその取り扱いについて、平素より機会をとらえ適切な指導に努めている。</p> <p>い)学内外問わず、他者に迷惑をかけないという観点より社会的モラルやルール、エチケットについて、平素より機会をとらえ適切な指導に努めている。</p>	<p>1.</p> <p>あ) 80%以上</p> <p>い) 70%以上</p> <p>う) 65%以上</p> <p>2.</p> <p>あ)~い)の平均指数 80%以上</p> <p>3.</p> <p>あ) 80%以上</p> <p>い) 80%以上</p>	<p>1.</p> <p>あ)昨年 2021 年度は 86.2%で、2022 年度は 81.7%であった。(△ 1つの問題を解くにあたって、思考力・判断力・表現力が必須となった昨今の入試問題に対応すべく、知識の詰め込みだけでなく、解答までの過程を重視した指導を行っている。</p> <p>い)昨年 2021 年度は 72.4%で、2022 年度は 75.0%であった。(○ 各大学の入学試験において、さまざまな入試形態が増設されている昨今に対応するため、昨年の入試動向や次年度の対策などきめ細かく説明会などを行っている。</p> <p>う)昨年 2022 年度は 65.0%で、2021 年度は 67.2%であった。(○) さまざまな生徒のニーズに対応するため、教員同士で授業の質を高め合えるよう、情報共有を行っている。</p> <p>2.</p> <p>あ・い)の平均指数は 80.0%【2021 年：87.1%、2020 年：82.9%】と 80%以上を維持している(○)。 あ)No19 の教材研究に工夫を凝らし、い)No21 への効果につなげていきたい。 高評価を維持している要因の一つに ICT の導入があげられる。</p> <p>3.</p> <p>あ)2022 年度は前年比+2.4%の 81.7%と上昇している(○)。</p> <p>い)2022 年度は前年比+4.1%の 81.7%と上昇している(○)。</p> <p>SNS を通じたトラブルが発生しないよう、個人情報や肖像権についての取り扱いについて指導している。ネットリテラシーの重要性も人権教育を通じて指導している。</p>
(2) りな創る立飛100周年に向け、ニーズにできる信頼づくり	<p>1. 生徒・保護者・中学校からの信頼づくり</p> <p>あ)24・26・27・28・30・32 い)25・29・31・33 う)34</p> <p>2. 地域に信頼される学校づくり</p> <p>あ)11・12</p>	<p>1. 生徒・保護者には次のあ~い)の観点を信頼作りの基盤とする。また、生徒の出身中学校に対しては、う)の観点を信頼作りの基盤とする。</p> <p>あ)生徒の生活指導・進路指導・欠席過多の場合、組織的に対応する体制を整える。</p> <p>い)上記あ)に対する指導は、常に保護者と連携を取り学校と家庭の両輪で指導を行う。</p> <p>う)生徒の転・退学に至るまでの十分な指導と保護者・出身中学校との密な連携を常に心掛ける。</p> <p>2.</p> <p>あ)の観点では、地域住民に対し、施設・設備の貸し出しや、交流を積極的に図る。</p>	<p>1.</p> <p>あ)の平均指数 約 80%</p> <p>い)の平均指数 80%以上</p> <p>う)の平均指数 約 80%</p> <p>2.</p> <p>あ)の平均指数 75%以上</p>	<p>1.</p> <p>あ)の生徒・保護者に対する平均指数は 78.3%と、2022 年はほぼ例年通りであった(○)。次年度も機能充実に一層努めていく。 い)の本年度平均指数は 81.6%であり、ここ数年は 80%以上で推移している。学校と家庭との両輪指導の定着が窺われる (◎)。本年度の保護者アンケート 4&17(平均 82.5%)からも信頼度の数値的な検証ができる。 う)2022 年度は例年並みの 78.3%であった(○)。転学・退学は残念なことであるが、生徒自身の将来を考慮する上で、時には、生徒の健康面などを考慮し、教育的観点より避けられない場合もある。担任や学年が家庭や出身中学校との連携を大切にしている結果であると評価する。</p> <p>2.</p> <p>あ)2022 年度は 75.8%であった。少し減少は見られるが、職員間に意識が浸透している(○)。近隣小学生・住民参加型の年 1 回の天体観測会(中学部主催)や、生涯教育では施設貸与の上、指導者も本校職員で貢献していること、また、中高のクラブ活動での試合会場校として貢献している等の実態を、職員が正しく理解し、協力していると評価する。</p>
(3) 環境・システムの醸成	<p>心豊かで潤いのある学校生活</p> <p>あ)6・7・8</p> <p>い)9・10</p> <p>う)17・18</p>	<p>あ)ホームページによる情報公開、学校・学年・学級から保護者への文書による情報提供や授業公開を定期的に行うなど、開かれた学校づくりに努める。</p> <p>い)危機管理マニュアルを踏まえ、警察・消防や関係機関との連携に努め、適切な校内訓練のシステムを構築する。</p> <p>う)環境教育の一環として、ゴミの分別・日々の清掃指導の徹底を図る。</p>	<p>あ)の平均指数 85%以上</p> <p>い)の平均指数 65%以上</p> <p>う)の平均指数 70%以上</p>	<p>あ)の平均指数は、2022 年度は 85.0%となった。中高HP も一新され、classi の全校導入もあり、開かれた学校づくりが加速度的に充実してきていると感じられる(◎)。</p> <p>い)の平均指数は、2022 年度は前年比+5.6%の 65.0%であった。(○)。 訓練のみではなく、常に生徒の安全を守る為に、災害の多い近年の大きな課題として、さらに学内での体制を整えていかなければならない。</p> <p>う)の平均指数は、2022 年度は 72.5%であった(○)。公共の施設を、自らの手で、美しく保とうといく気持ちを平素より常に持つことが肝要である。新しい校舎を自分たちで美しく保ち、心地よい環境、過ごし易い環境こそ人をつくるものである事に気づかせ、教員が先頭に立って、環境の大切さを生徒達に徹底していきたい。</p>